


野菜の需給・価格動向レポート(平成25年10月21日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	9月の価格情報			10月の価格情報		生育及び価格の10月の見通し			
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・ 近畿ブロック旬別 平均販売価格				
		中旬	下旬				上旬		
葉 茎 菜	キャベツ 	74.19	91	93	74.19	79	・入荷見込量: 16,170 (98) ・主産地: 群馬 (63)、千葉 (16)、岩手 (8)、茨城 (6)	・群馬産は、台風26号の影響で収穫作業が一時滞る等の影響があったものの、生育は順調で平年並みの出荷の見込み。ピークを過ぎた出荷は日々減少傾向で、まとまった出荷は、月末までの見込み。千葉産は、平年より1週間程度早めの生育で、台風26号の影響もなく、平年より多めの出荷となっている。今後は11月の出荷のピークに向けて徐々に出荷量が増加する見込み。 ・群馬産及び千葉産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。	
		88.91	89	92	88.91	82	・入荷見込量: 3,900t (90) ・主産地: 群馬 (62)、長野 (24)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	273.33	292	273	218.22	240	・入荷見込数量: 5,650t (98) ・主産地: 青森 (29)、北海道 (17)、秋田 (11)、山形 (9)、茨城 (7)、岩手 (6)、輸入 (4)、新潟 (4)	・青森産は、順調な生育、出荷となり、今後も平年並みの出荷の見込み。北海道産は、生育良好で太物中心の出荷となり、平年より多めの出荷となっている。まとまった出荷は月末までの見込み。秋田産は、遅れていた生育が回復し、11月のピークに向けて、日々増加している。今後も平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。	
		487.13	566	585	444.77	594	・入荷見込数量: 190t (78) ・主産地: 香川 (33)、大阪 (13)、三重 (12)、徳島 (12)、奈良 (8)、愛媛 (6)、高知 (6)		
	はくさい 	78.06	109	80	78.06	78	・入荷見込量: 14,200t (100) ・主産地: 長野 (77)、茨城 (13)、北海道 (6)	・長野産は、好天により生育が進み順調な出荷となっているものの、出荷のピークを過ぎ、今後は日々減少する見込み。茨城産は、降雨の影響による品質低下が懸念されるものの、出荷開始を迎え、今後、出荷量が日々増加する見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。	
		88.72	115	78	88.72	71	・入荷見込量: 5,200t (91) ・主産地: 長野 (93)		
	ほうれんそう 	583.95	790	702	350.1	573	・入荷見込量: 1,360t (95) ・主産地: 群馬 (37)、栃木 (15)、茨城 (15)、千葉 (10)、岩手 (7)、埼玉 (5)	・群馬産は、台風26号の影響で少なめの出荷になっているものの、今後は、生育が回復し平年並みの出荷の見込み。栃木産は、生育が順調なものの、台風26号の影響で出荷量がやや減少しており、今後も少なめの出荷の見込み。茨城産は、生育が順調で、平年を上回る出荷となっている。 ・出荷は概ね順調であることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
		670.86	842	797	419.76	651	・入荷見込量: 520t (100) ・主産地: 岐阜 (62)、福岡 (8)、和歌山 (7)、群馬 (6)		
	レタス (結球) 	158.27	157	147	158.27	132	・入荷見込量: 9,740t (100) ・主産地: 茨城 (64)、長野 (26)、栃木 (7)	・茨城産は、生育が回復し順調な出荷となっていたが、台風26号の影響で、外葉等に傷み等が発生し、少なめの出荷となっている。今後は、降雨の影響による品質の低下等から、少なめの出荷の見込み。長野産は、ピークを過ぎ日々減少傾向となり、まとまった出荷は、中旬までの見込み。 ・茨城産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。	
		152.57	170	162	152.57	145	・入荷見込量: 1,400t (95) ・主産地: 長野 (45)、茨城 (36)、兵庫 (16)		
	たまねぎ 	76.15	105	106	76.15	102	・入荷見込量: 10,570t (95) ・主産地: 北海道 (86)、輸入 (10)	・北海道産は、収穫は9月末で終了、今後は選別をし、計画的な出荷となるが、生育期の少雨等の影響で全体的に小玉傾向で、平年を下回る出荷となる見込み。 ・北海道産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		76.15	123	113	76.15	107	・入荷見込量: 3,900t (99) ・主産地: 北海道 (75)、兵庫 (24)		
果 菜	きゅうり 	210.69	407	352	262.75	265	・入荷見込量: 6,090t (98) ・主産地: 埼玉 (33)、群馬 (22)、茨城 (12)、福島 (9)、栃木 (6)	・埼玉産は、定植時の高温等の影響と最近の気温の低下で少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。群馬産は、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、作付面積の減少から、平年より少なめの出荷の見込み。福島産は、ピークを過ぎ減少傾向で、平年より早めの出荷の切り上がりとなる見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、平年をやや上回って推移する見込み。	
		221.71	419	343	284.72	272	・入荷見込量: 1,200t (95) ・主産地: 宮崎 (22)、北海道 (17)、群馬 (13)、大阪 (13)、福島 (9)、愛媛 (8)		
	トマト (大玉) 	229.51	326	368	315.83	503	・入荷見込量: 5,790t (97) ・主産地: 千葉 (25)、茨城 (17)、福島 (12)、青森 (8)、愛知 (7)、群馬 (6)	・千葉産は、上旬の好天の影響により、出荷量が回復傾向となっていたが、台風26号の影響により少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。茨城産も、台風26号の影響で、ハウスのビニールが破損したり、落果が一部でみられ、少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。福島産は、平年並みの出荷が、月末まで続く見込み。 ・千葉産及び茨城産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		271.33	371	379	337.88	548	・入荷見込量: 1,100t (98) ・主産地: 岐阜 (25)、北海道 (20)、熊本 (14)、岡山 (9)、石川 (7)、愛媛 (7)、愛知 (6)		
	なす 	209.55	349	372	301	271	・入荷見込量: 3,640t (93) ・主産地: 高知 (31)、栃木 (22)、群馬 (16)、茨城 (12)、福岡 (5)	・高知産は、順調な生育で出荷量が日々増加しており、今後も平年並みの出荷の見込み。栃木産は、出荷の終盤となっているところに、台風26号の影響もあり、出荷の切り上がりが、1週間程度早まる見込み。群馬産も出荷の終盤を迎え、減少傾向で、平年より少なめの出荷の見込み。 ・今後の主産地である高知産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。	
		221.72	311	282	263.21	259	・入荷見込量: 750t (96) ・主産地: 高知 (22)、徳島 (21)、山梨 (10)、京都 (7)、熊本 (7)、大阪 (6)、岡山 (6)		
	ピーマン 	263.58	427	381	263.58	379	・入荷見込量: 2,060 (98) ・主産地: 茨城 (60)、岩手 (17)	・茨城産は、台風26号の影響は見られないものの、夏場の高温の影響で少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。岩手産は、出荷の終盤を迎え、少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。	
		282.16	477	443	282.16	356	・入荷見込量: 430t (85) ・主産地: 青森 (18)、宮崎 (13)、福島 (12)、兵庫 (12)、高知 (10)、大分 (8)、北海道 (7)、鹿児島 (7)		
	根 菜	だいこん 	94.6	125	130	64.33	107	・入荷見込量: 12,740t (95) ・主産地: 青森 (33)、北海道 (31)、千葉 (23)、岩手 (6)	・青森産は、気温の低下により出荷量が減少し、今後も少なめの出荷の見込み。北海道産は、出荷の終盤を迎えているものの、順調な出荷となり、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、好天により平年並みの出荷となっているものの、今後は台風26号の影響により、少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。
			100.39	125	125	76.48	114	・入荷見込量: 4,400t (100) ・主産地: 北海道 (31)、石川 (31)、青森 (12)、新潟 (10)、岩手 (7)	
		にんじん 	123.08	122	128	123.08	123	・入荷見込量: 8,770t (100) ・主産地: 北海道 (90)、輸入 (2)	・北海道産は、出荷終盤期を迎えているが、平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
	123.11		125	129	123.11	126	・入荷見込量: 2,700t (96) ・主産地: 北海道 (98)		



種類	9月の価格情報				10月の価格情報		生育及び価格の10月の見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	上旬	
		中旬	下旬				
いも	さといも	242.66	300	272	200.88	251	・埼玉産は、順調な生育で、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、夏場の高温と少雨の影響で小玉傾向で少なめの出荷となり、今後も少なめの見込み。 ・千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		220.11	300	236	207.2	237	
も	ばれいしょ	101.61	134	129	88.17	115	・北海道産は、収穫がほぼ終了。地域により作柄に違いはあるが、全体では最も出荷の多い十勝が良かったことから、平年並み若しくは平年を上回る見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。
		101.61	143	126	88.17	107	

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)  
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック  
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。( )内は前年対比。さといもは、前年実績。  
5 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

## 2 野菜の需要動向

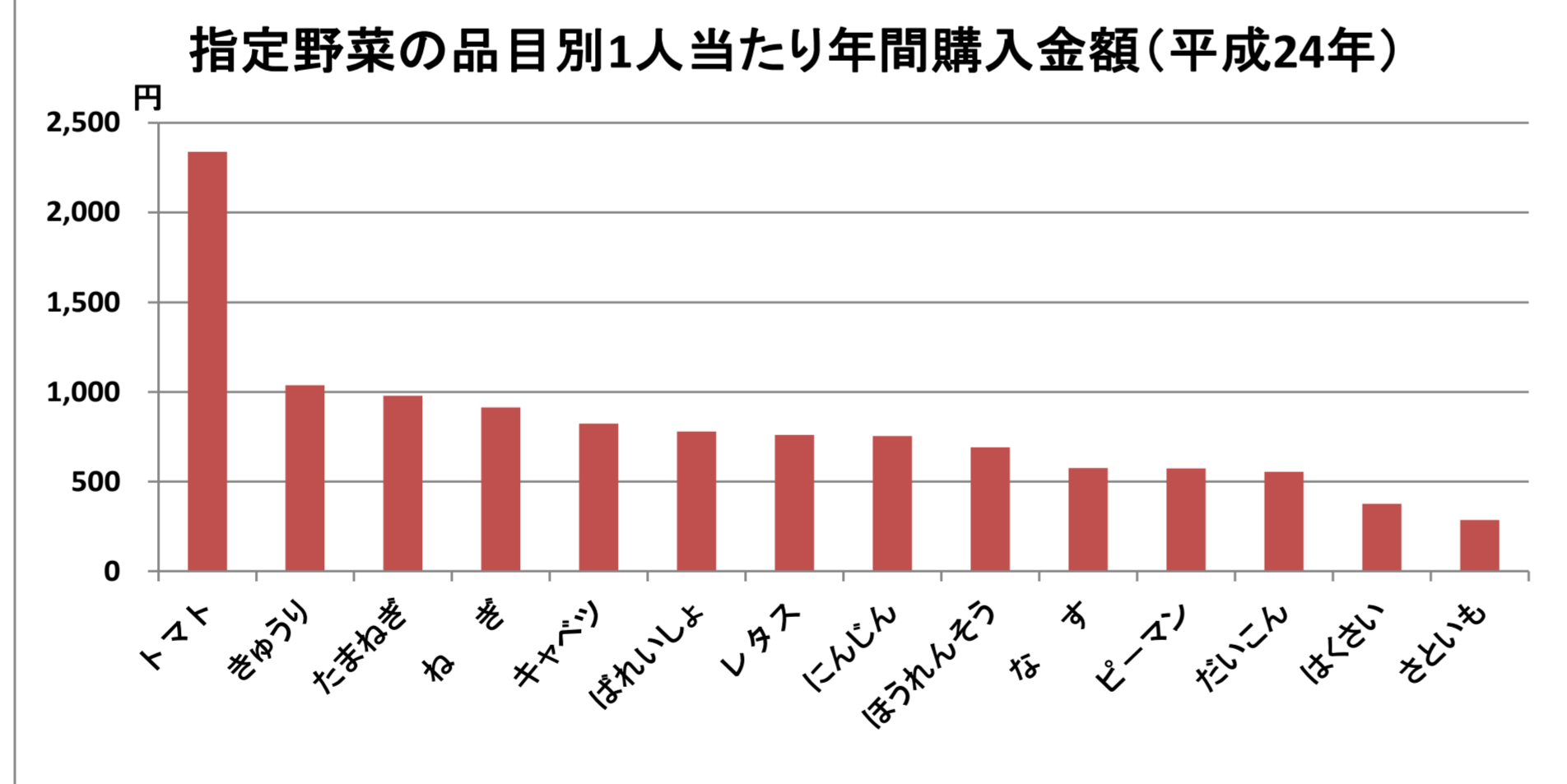
年	生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)								主要野菜の小売価格(東京都都区部) (単位:円/kg)					
	過去5か年平均		平成24年		平成25年				キャベツ			レタス		
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	前年比	購入金額(円)	前年比	過去5か年平均	平成25年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成25年	5か年比(%)
1月	4,271	1,557	4,189	1,634	4,243	101	1,669	102	187	203	109	579	904	156
2月	4,447	1,610	4,499	1,735	4,553	101	1,652	95	203	204	100	555	722	130
3月	4,797	1,765	4,584	1,851	4,961	108	1,769	96	207	181	88	512	434	85
4月	4,723	1,834	4,620	1,904	5,019	109	1,809	95	248	207	83	466	426	91
5月	5,055	1,905	4,945	1,948	5,257	106	1,861	96	175	133	76	369	318	86
6月	5,048	1,881	5,103	1,875	5,249	103	1,897	101	140	137	98	338	274	81
7月	4,421	1,691	4,386	1,675	4,456	102	1,783	106	149	173	116	308	385	125
8月	4,318	1,689	4,245	1,618	4,422	104	1,741	108	138	140	101	414	371	90
9月	4,839	1,783	4,916	1,703		0		0	142	143	101	526	438	83
10月	5,280	1,840	5,242	1,761		0		0	150		0	467		0
11月	5,030	1,630	5,039	1,602		0		0	155		0	385		0
12月	5,140	1,837	5,169	1,888		0		0	148		0	495		0

## 3 野菜の輸入動向

区分	野菜の輸入数量 (単位:トン、%)								主な野菜の輸入数量 (単位:トン、%)				
	平成23年		平成24年		平成25年1~8月		平成25年8月		輸入先	平成24年9月(A)	平成25年9月(B)	(B)/(A)	
	前年比	前年比	前年同期比	前年同期比									
生鮮野菜	915,091	112	946,931	103	555,688	80	55,593	95	合計	23,082	28,534	124	
加工野菜	1,803,510	107	1,909,671	106	1,239,791	98	158,413	99	中国	21,423	26,132	122	
野菜合計	2,718,600	109	2,856,601	105	1,795,480	92	214,006	98	アメリカ	1,659	2,401	145	
うち中国産野菜合計	1,409,984	110	1,458,418	103	896,688	92	113,696	99	にんじん	合計	5,635	6,479	115
中国産シェア	52		51		50		53		中国	5,572	6,185	111	
									ニュージーランド	633	205	32	
									ねぎ	合計	3,848	4,791	125
									中国	3,846	4,789	125	

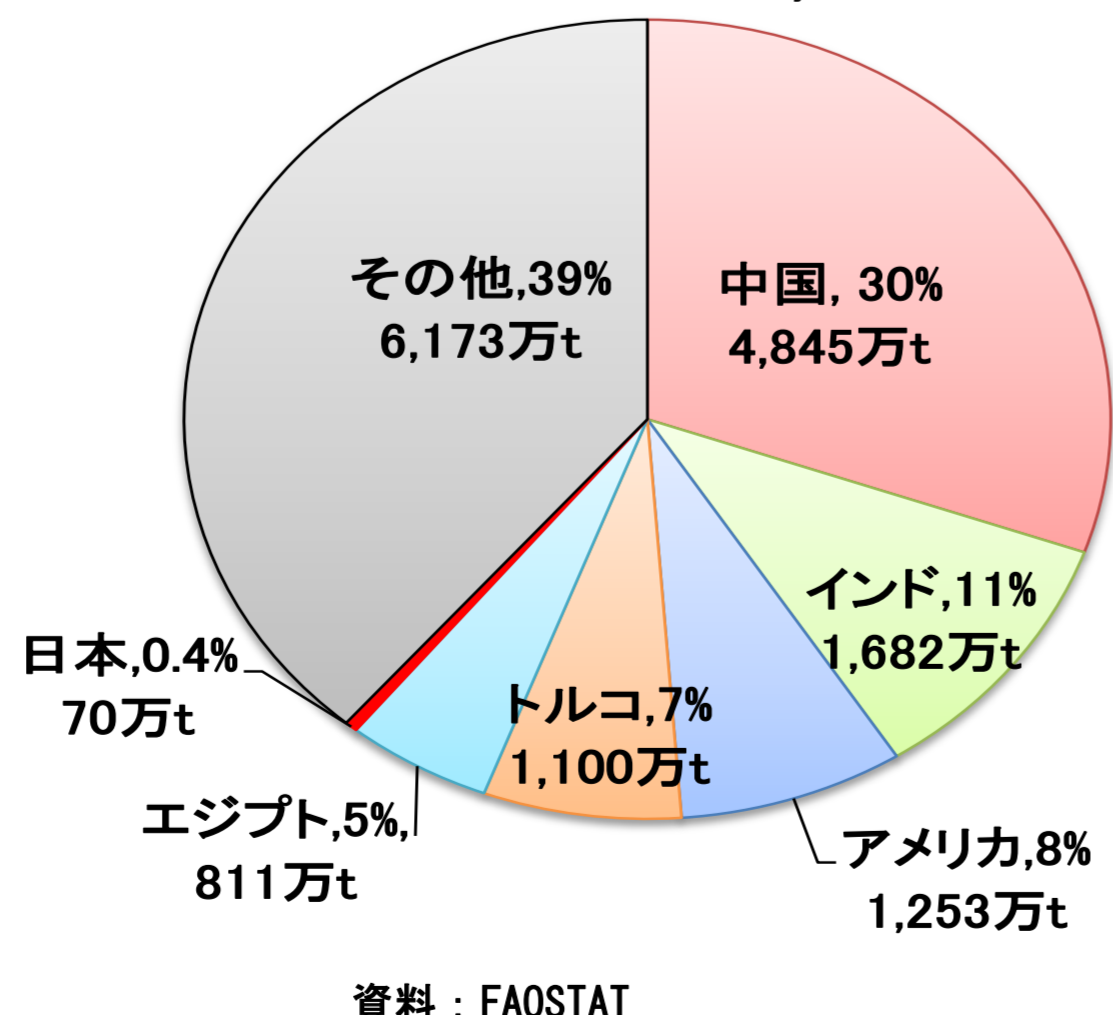
## 4 トピック — 10月10日のトマトの日になんで、トマトランキング —

10月10日は、一般社団法人全国トマト工業会が定めた「トマトの日」です。そこで、今回は国内外のトマトの消費、生産に関するランキングを紹介する。  
トマトは、国内の家庭で購入される野菜のなかで、年間1人当たりの購入金額が最も多い人気野菜の一つであるが、日本で食べられるようになったのは、明治時代以降と言われており、指定野菜14品目の中では日本への定着が比較的新しい野菜である。  
国別の消費量(1人1日当たり)を見ると、リビアが最も多く(同412g)、日本(同23g、第105位)の18倍であり、中近東等の諸国でも消費量が多い傾向がある。リビアでは、トマトと牛肉を煮込んだ、ショルパというスープがよく食べられている。消費量が上位の国々では、スープや煮込みなどの料理に多く使われるのに対して、国内では生食での消費が主体である。  
世界の生産量を見ると、野菜の中でトマトは、ばれいしょに次いで、2番目に生産量の多い品目であり、国別では、中国が最多の5千万トンで全体の3割を占め、次いで、インド、アメリカ、トルコの順である。  
国内の生産量を見ると、大都市圏から遠い熊本県と北海道が第1位、第2位を占め、次いで、愛知県、千葉県、茨城県、栃木県等の大都市圏にも主産地が多い特徴がある。  
現在は、東・北日本の産地からの出荷が中心で、出荷量が平年を下回っているものの、冬春もの主産地である熊本県や愛知県では、生育が順調であり、今後徐々に平年並みの出荷量に近づくと見込まれる。  
(なお、直近の熊本県等のトマト主産地の生産・出荷動向(画像情報を含む)はこちらから)

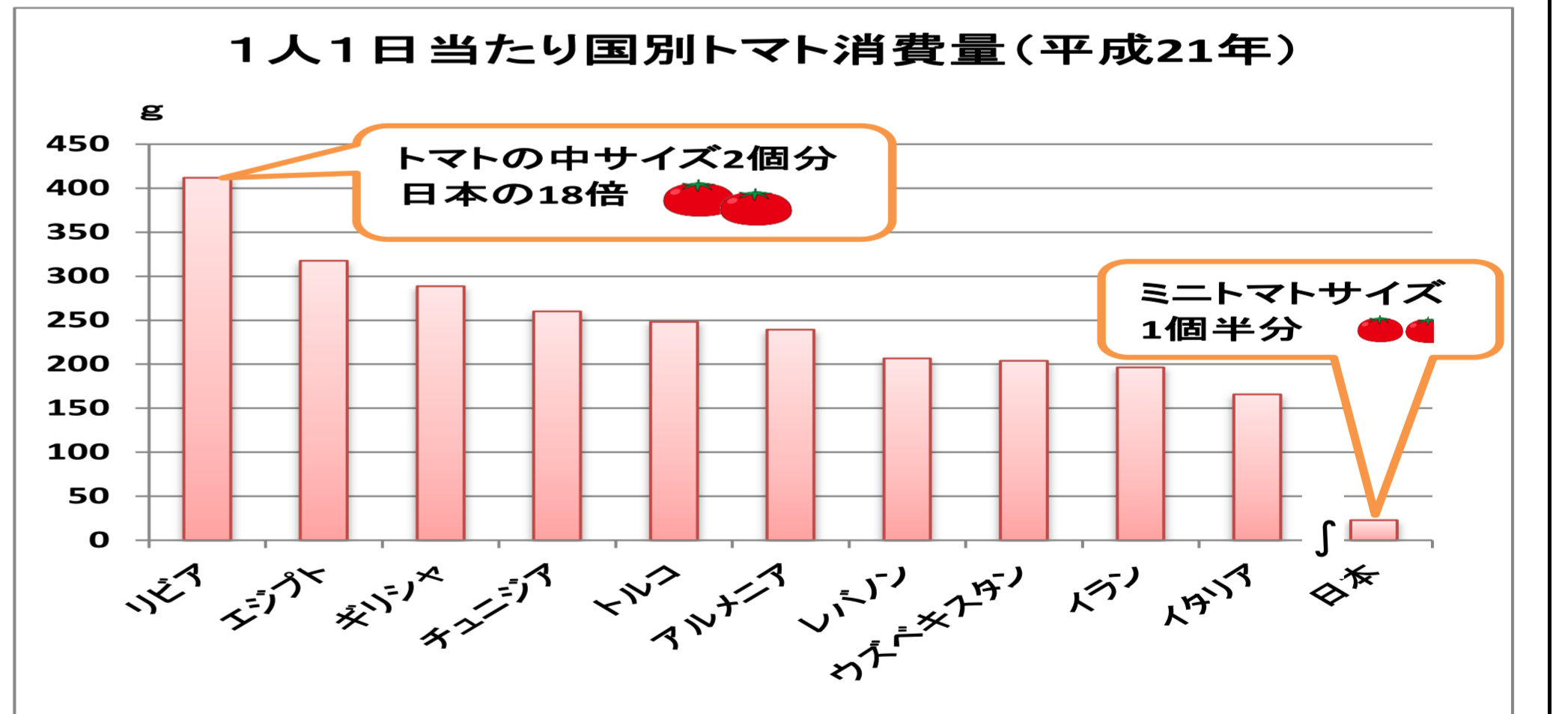


資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」

### トマトの生産量(平成23年)の国内別訳 世界の生産量 15,935万トン



資料:FAO/STAT



資料:FAO/STAT



資料:ベジ探(原資料)農林水産省「平成23年産 野菜生産出荷統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、齋藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。